

7.26 記念講演会

「キューバの現在、歴史と真実」

在日キューバ共和国大使館、マイレン・リベロ参事官

日時：2017年7月29日、14:00~16:00

場所：アメニティスペース神楽坂

本日は、7月26日というキューバ国民の祝日を日本キューバ友好協会の皆様と祝う機会を与您いただき感謝いたします。この祝日の意義について、キューバの歴史を振り返りながら少しお話ししたいと思います。

キューバは新大陸の一部で、千年以上の歴史を持つ日本と比べると歴史の若い国です。

1492年にクリストファー・コロンブスがキューバ島に到着した頃は30万人ほどの先住民が住んでいました。先住民は穏やかな性格で、原始共同体と呼ばれる社会を築いていました。スペイン人入植者達は新大陸の富に大きな可能性を感じましたが、キューバ島の先住民人口が徐々に減ったため、アフリカから奴隷を導入し始めました。彼らは先住民よりも厳しい労働に耐えました。

1868年10月10日、カルロス・マヌエル・セスペデスは「ヤラの叫び」を上げ、10年戦争と呼ばれる第一次独立戦争が始まりました。降伏した者たちへの恩赦を約束した「サンホン条約」によって戦争は終結しましたが、キューバ人は独立を達成することも、奴隷制を完全に廃止することもできませんでした。1878年に独立派のアントニオ・マセオ将軍がサンホン条約に異議を唱え、戦闘継続を宣言しました。これは「バラグアの抗議」として知られています。

1895年、独立派のリーダーであるホセ・マルティが主導した「バイレの叫び」を契機に、第二次独立戦争が起こるべくして始まりました。

1898年には、ハバナ港でアメリカ海軍の軍艦（装甲艦メイン号）の不可解な爆破事件が起きました。これにより、米国が独立戦争に介入し、1895年から98年にかけて、スペイン、キューバ、米国の三つ巴の戦いとなりました。1898年12月10日にパリ条約の締結により、戦争は終結します。スペインはキューバとプエルトリコを米国に譲渡します。こうしてキューバの新たな時代が幕を開けました。

新植民地時代：

1899年1月1日、正式に米国によるキューバの軍事占領が開始されます。エストラーダ・パルマ率いる新しい植民地政府の統治が始まります。

1903年キューバ共和国と米国間の関係を決定づける恒久条約が締結されました。同年7月2日には、海軍基地租借条約が締結されました。交通といえば海上交通に大きく依存する時代、カリブ海を押さえることは地域の支配を意味したため、米国にとって優先順位が高かったのです。当初、米国は基地としてニペ、グアンタナモ、シエンフエゴス、バイア・オンドの4か所の土地の獲得を目指

しましたが、キューバとの交渉の結果、先の協定に記載されていた 2 つの土地に削減されました。これはあくまで土地の貸与であり、売却ではありません。この時代は、アメリカの傀儡にすぎない無能で腐敗した大統領が次々と交代しています。このような状況下で、新たな革命の団体が誕生しています。キューバ全国労働者連合、共産党を生んだハバナ社会主義連合、ホセ・マルティ人民大学、大学生連合などです。また、第一回女性会議が開催され、女性が市民運動に参加しました。

モンカダ兵營の襲撃：

マルティ生誕百年を記念して「百年記念の世代」と自分たちを名づけた青年グループは武装闘争を組織化し、フィデル・カストロはその中心的存在になっていきます。

彼らはサンティアゴ・デ・キューバにある、キューバ第二の兵營、ギジェルモ・モンカダ兵營とバヤモにあるカルロス・マヌエル・デ・セスペデス要塞を襲撃しました。襲撃により、民衆運動を喚起し、民衆の武装蜂起につなげ、革命のためのゼネストでクライマックスを迎える予定でした。この襲撃は 1953 年 7 月 26 日に行われたのです。

しかし兵營は占拠できませんでした。80 名の戦闘員が惨殺され、襲撃に加わった戦闘員はモンカディスタと呼ばれ、裁判にかけられました。裁判でフィデル・カストロは自分自身の弁護を行い、弁護陳述において襲撃の目的を明らかにしました。これは「歴史は私に無罪を宣告するだろう」と結ばれた有名な陳述です。モンカディスタや他のグループから 7 月 26 日革命運動が生まれました。

1956 年 12 月 2 日、フィデル・カストロの指揮の下、80 名を乗せたグランマ号が上陸しました。こうして、オリエンテ州のシエラ・マエストラで、2 年に及ぶ革命のための戦いが開始されました。ところで、グランマ号がメキシコを出航するとき、こんなスローガンを口にしていたそうです。「出発するからには到着する、到着するからには入りこむ、入りこむなら勝利する」

1959 年 1 月 1 日の夜明け、サンタ・クララ市は革命家たちに占拠されました。この日の早朝にバチスタが逃亡しました。フィデルはカミロ・シエンフエゴスとチェ・ゲバラに部隊を率いて首都に向かうよう命令しました。フィデル自身は残りの部隊を率いてサンティアゴ・デ・キューバへ向かい、民衆にゼネストの準備を呼びかけ、1959 年 1 月 2 日にゼネストが始まりました。

革命時代

政権を獲るとすぐ、革命政府は新植民地時代の政治体制の解体に取り掛かりました。弾圧組織を解体し、市民に対して歴史上初めて完全な権利の行使を保障しました。行政を健全化し、横領された財産を取り戻しました。バチスタ派の戦争犯罪人を裁判にかけて罰し、親バチスタ派の腐敗した労働者運動の幹部を一掃し、バチスタに仕えた政党を解散しました。フィデルは首相に任命され、民衆のための政策が速やかに推し進められました。

キューバ電話会社は国有化されました。政府所有の余地、建物、住居の賃貸料を 50%引き下げる法律が制定され、プライベートビーチは全て民衆に解放され

ました。電気料金が引き下げられ、国民の購買力を引き上げるため多くの職が生み出されました。教育分野では、数多く校舎・教室が設けられました。大規模な公共事業計画によって多くの失業者が雇用されました。

この時期の最も急進的な政策は 1959 年 5 月 17 日に制定された第一次農業改革法です。それまで搾取されていた小作人に農地の所有権が与えられました。

米国政府はキューバに対して組織的かつ執拗な敵対政策をとり、国の不安定化のため反革命派運動を支援・援助していました。サボタージュやテロリズムなどの事件が続発し、一般市民の犠牲者が増えたのです。反革命派の流れに対抗するため、全国革命民兵、革命防衛委員会、キューバ女性連盟、共産党青年同盟、抵抗青年団などの組織が作られ、広く国民が革命の維持に参画することが可能となりました。

1960 年 7 月、米国政府がキューバ砂糖の輸入割当制度を廃止したことを知ったフィデルは、キューバ国内の全ての米国企業の資産を国有化することを告げました。これに対して、アイゼンハワー政権は 1961 年にキューバと断交しました。同年 4 月 17 日、キューバ空軍基地への急爆の後、プラヤ・ヒロンへの侵攻が始まりました。米国 CIA が何ヶ月もかけて訓練した傭兵軍を打ち負かすのに 72 時間もかかりませんでした。この戦いの犠牲者を埋葬するとき、フィデルは革命の社会主義的性格を宣言しました。

社会主義陣営や第三世界諸国との連携が強化され、非同盟諸国運動の設立にかかわり、国家独立運動とその支援にむけ、連帯の政策を進めました。

キューバは厳しい経済封鎖の中、生き延びなければなりません。米国はキューバとの貿易を全面的に禁止し、その他の国々がこの犯罪的な封鎖に加わるよう促しました。しかし、ソ連邦をはじめとする社会主義国の積極的な連帯により、国家経済は機能し続けただけでなく成長さえしました。

1961 年の識字化運動でキューバの非識字者は一掃されました。米国が勧めた専門家や技術者の国外脱出を受けて、特に保健分野において顕著だったのですが、僻地でも医療を提供できるよう医師の養成が始まりました。

教育システムが国内全体い行き渡り、広範囲な奨学金制度によって全ての国民が中・高等教育を受けることができるようになりました。

1965 年、革命を進める最高機関としてキューバ共産党中央委員会が結成されました。

社会主義陣営の崩壊とソ連邦の解体が起きたのは、革命の発展と完成に邁進していた時期でした。キューバ経済は社会主義陣営に組み込まれていたため、これらの事件はキューバ社会に大きな影響を及ぼしました。革命初期から続いた米国の封鎖が社会主義陣営への参加の圧力となったので、資本主義世界との関係構築は大きく制限されていました。こうして「平時の非常時 (periodo especial)」として知られる期間が始まります。

短期間の内に、キューバの生活物資の輸入額は 1989 年の 81 億 3900 万ペソから 1993 年には 20 億ペソに落ち込みました。

間違いなく、キューバ革命の勝利は 20 世紀の南北アメリカ大陸における重要な事件であり、世界中の何百万の人々にとって国家主権、人道主義、国際主義のシンボルでした。

1953年7月26日：

1953年7月26日はキューバに起こった大事件で、世界中の主要紙の見出しをにぎわせました。

国内の社会的不正義の現実を国民の良心に訴え、武装闘争を開始するための武器を手に入れて真の独立と国家主権の獲得を目指すことが、この向こう見ずな行動の戦略的な目的でした。

行動を起こした動機は沢山あり、どれも正当なものです。周りを見渡せば理解できました。過去50年に亘って蔓延した貧困、飢え、不健康、腐敗、無知、読み書きのできないこと、差別、虐待、弾圧、殺人、薬物乱用、その他深刻な社会的不正義として性格づけられるあらゆる事象が日常的に大半のキューバ人に多大な影響を及ぼしていました。中でも、子供、女性、老人、農民、失業者などが不公正の被害者であり、その数はあまりにも多く数えることができません。たとえ多くの困難、挑発、脅迫、テロ行為に見舞われても、革命以降のキューバでは、社会正義実現のための自発的な努力が続けられ、徐々に実を結び、それまでと異なる現実を作り上げることができました。

人生は多くの事柄についてのかけがえのない教師ですが、目の前の現実を直視して、感じ、真摯に考えることが自覚を促すのだということを教えてください。したがって、このような認識が意志を育みます。世代から世代へ、顔を付き合わせてさらに若い世代に向けて、1953年のあの社会全体の真実の数々が、物事を歪曲し愛国者たちの感性を捻じ曲げて伝えようという領土併合主義者達の意図を挫くのです。そのためには、年配者の誠実な言葉でこのような認識が生まれる理由をこれからの世代に伝え、忘れてはならない記憶を強固なものにするのです。ただ一つキューバ人にとって道徳的に許されないことは、忘れ去ることだからです。

キューバの現実：

キューバ以外の国にとっては希望であり理想郷と思えるのですが、キューバではすでに多くのことが実現している事実をご紹介します。

1. 保健衛生は全ての国民に無償で提供される。キューバでは、国が僻地をも含めた国内全域に約150の総合病院、400のポリクリニック、11000の診療所、140の母の家よばれる妊産婦センターが配置され、医療サービスを提供している。
2. バイオ製薬産業の分野においては、1099種の製品が生産、流通、輸出されており、一部は海外の特許を取得している。
3. 失業率は4%以下で、世界第30位以内にランクしており、一部先進国より良好。

4. 個人事業や非国営の事業形態が拡大。50 万人を超えるキューバ人が個人事業に従事し、退職後の保障を含む社会保険システムが整っている。
5. 2016 年度末の乳幼児死亡率は 1000 人当たり 4.3 人。国連統計によると、1955 年から 1960 年のキューバの平均乳幼児死亡率は出生児 1000 人当たり 69.86 人だった。
6. キューバの平均寿命は 78.45 歳で、この分野では世界の上位グループに位置する。
7. 国内には 5 万人の医師が働いており、住民 1 人当たりの医師数では世界の上位に位置する。
8. 予防接種プログラムは国際的にも幅広い 13 種類の感染症に対する予防接種が行われている。
9. キューバの医療国際協力は現在 67 カ国で実施されており、2 万 5 千人の医師を含む 5 万人以上が医療の国際協力に従事している。その内女性が占める割合は 65%。
10. ヘンリー・リーブス医療部隊は自然災害などの非常時に出動し、40 の分隊から編成されている。11 年前から活動を開始し、350 万人以上を治療し、8 万人以上の命を救った。今年の 5 月に世界保健機関より公衆衛生賞が授与された。
11. ラテンアメリカ医学校 ELAM はすでに第 11 回の卒業式を執り行い、これまでに 100 か国以上の 27000 人が医師の資格を取って卒業した。
12. キューバはすべての市民に対して無料の教育提供を続ける。15 歳から 24 歳の若者の識字率は 100%、成年の識字率は 99.8%。11.9%の国民は高等教育を受けており、中等教育までのものは 65.7%。
13. 2016 年から 2017 年には 170 万人の子どもに保育園、小学校、中学校の教育を保障した。キューバには 60 以上の高等教育施設があり、人的資源の能力をさらに強化する場となっている。
14. 「わたしはできる」という名の識字キャンペーンが海外 30 カ国で実施され、五大陸の約 1 千万人が読み書きができるようになった。
15. キューバは市民の生活の質の向上と総合的な教育の手段として、体育やあらゆる種類のスポーツの発展と振興を優先事項としている。
16. 革命を推し進める政策の下、文化活動へアクセスの民主化が行われた。
17. 2016 年の外国人観光客数は 4 百万人で、そのうち日本人観光客は史上最高の 22,150 人を記録した。
18. キューバはラテンアメリカ地域でもっとも児童虐待の少ない国となった。

19. キューバは麻薬や向精神薬の使用率がもっとも低い国のひとつで、依存予防・対策プログラムが充実し、国内各所の社会組織や団体を通じてコミュニティの支援を受けることができる。
20. 2016年10月に開催された国連総会で191カ国が大量虐殺の手段といえる米国の対キューバ封鎖を非難した。米国は半世紀を通じて初めて棄権した。
21. キューバの英雄であり、国にとってそして世界にとって尊厳のシンボルである、ヘラルド、アントニオ、ラモン、レネ、フェルナンドは、世界をより良くするため、社会の重要な仕事に従事し、最善の努力を尽くしている。彼らの解放のため連帯してくれた何百万人もの人々に今なお感謝している。
22. 2016年には日本の安倍晋三首相や米国のバラク・オバマ大統領（当時）を始め、10カ国以上の国のトップがキューバを訪問した。これはキューバが国際的に重要な役割を果たしていることを示すものである。

米玖関係の現在

キューバとアメリカ合衆国の指導者は2014年12月17日外交関係の再開に向けて前進していくと発表しました。

2015年7月20日、両国は国交を回復し、ワシントンとハバナの利益代表部は大使館としての活動を開始しました。

2016年3月、バラク・オバマ大統領が1928年以来、史上2人目の大統領としてキューバを訪問しました。

この後、いくつもの分野で協力が開始されました。民間航空、郵便、科学技術研究、公衆衛生、農業、環境、エネルギー、治安、などです。

しかしながら、両国の関係再開は関係正常化を意味しません。封鎖が続く限り、正常化はありえないのです。

先月16日に米国のトランプ新大統領は顧問団や支援者とマイアミの小さな劇場で集会を開き、新たなキューバ政策を発表しました。トランプが提案した政策の主なものは次のようなものです。

1. 米国からキューバへの観光禁止を徹底するため、渡航制限を強化する。
2. 米国の対キューバ封鎖政策を追認する。
3. キューバを支援し封鎖の撤廃を求める国連やその他国際機関の呼びかけに反対する。
4. 学術関係ではない教育目的の渡航は制限し、団体渡航のみ認める。
5. オバマ政権下で認められた個人渡航を禁止する。
6. 新たな政策では革命軍参加の企業との経済活動を制限する。
7. キューバ系アメリカ人はキューバへの渡航と送金を引き続き行うことができる。

8. これまで通り米国の団体はキューバの民間個人経営者との関係を続けることができる。
9. 移民に関する合意は継続される。
10. ドライフット・ウエットフット政策は復活しない。
11. キューバが再びテロ資金供与国リストに加わることはない。

最後に：

日本キューバ友好協会の皆様にお礼を申し上げることなく、この講演を終わらせることはできません。武器や暴力に頼ることなく、力ではなく理想による戦いに常に勝利し続けるわが国の、主権、独立、自決を主張する権利に対し継続したご支援をいただいています。

また、マイアミでの演説でドナルド・トランプ大統領が発表した措置に対し、友好協会が抗議声明を迅速に出して頂いたことに感謝します。崇高な目的のため、これから行われるであろう戦いにおいても、これまでのように皆さまのご支援がいただけると確信しています。

キューバは孤立していません。だからこそ強くなれるのです。ありがとうございます。

最後に、来る10月6日に日本で公開される「エルネスト」という映画をご紹介します。ボリビアの日系人フレディ・前村がボリビアでチェ率いるゲリラ部隊に参加する物語です。この映画のご紹介を持って、講演を終わらせて頂きます。

（付記）ここで述べた「新植民地時代」の出来事や革命政権によって実現された「キューバの現実」は、全てを網羅したものではなく、ごく一部の重要な事項に触れたのみである旨、ご留意いただきたいとのコメントがマイレン参事官からありました。